

「信州・気候変動モニタリングネットワーク」の設立と キックオフシンポジウムの開催

県内の多数の気象観測データを一元化

昨年2014年は、2月に大雪災害、7月に南木曾での豪雨災害がありました。2013年春の凍霜害、2012年7月の長野市内での集中豪雨など、近年は県内でも気象災害の発生が目立つようになってきました。気象災害は、気象庁のアメダス観測網で監視されていますが、雨は局地性が強く、設置間隔約17kmのアメダスでは、雨の一番強いところを捉えきれません。また、雪を測るアメダスの分布は積雪地域に偏っているため、昨年2月の大雪の際には、上田市の消防署で測られた積雪深が報道されたりしました。

しかし、県内にはアメダス以外にも多く気象観測点があり、その数はアメダスの6～9倍に上ります。気象観測は、国や県の現地機関、大学や独立行政法人などの研究機関や消防署の一部で行われており、それらを集計すると、アメダス46観測点に対し、県内には約370もの降水量観測点があることがわかりました。そこで、個々の機関の気象データや気候変動の影響データを県として一元化することで、より詳細な気候変動の現状把握を行おうというのが、「信州・気候変動モニタリングネットワーク」の趣旨です。

県内で気象観測や気候変動の影響に関わるデータをお持ちの公的機関にお声掛けしたところ、51機

関に賛同して頂くことができました。2014年11月6日にネットワークを設立し、その周知を兼ねたキックオフシンポジウムを開催しました。

飯綱庁舎でキックオフシンポを開催



会場での講演風景

当研究所の飯綱庁舎大会議室で開催したシンポジウムには、スタッフを含め116名の皆様にご参加を頂きました。交通の便の悪い飯綱庁舎に、大会議室が満杯になるほどの方々にいらして頂いたこと、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

シンポジウムでは、国立環境研究所の脇岡靖明さんに基調講演を頂き、日本の気候変動の現状、将来

気象データを集めることで・・・

- ・ 気象庁
- ・ 国道事務所（国）
- ・ 建設事務所（県）
- ・ 試験場

県内の気候変動の実態が
より詳細にわかるように

- ・ 大雨や大雪の分布の把握
（局地性の高い現象）

降水量観測点分布図



背景は長野県河川砂防情報ステーションの地図を利用

県内には気象庁アメダス以外にも多数の気象観測点が存在（講演資料より）

予測、気候変動への適応策などについてご報告頂きました。講演の中では、長野県を対象とした最新の気候変動影響予測の成果を紹介頂き、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第2作業部会のクリスフィールド共同議長らのビデオメッセージが流れました。続いて、当研究所の浜田 崇による、ネットワークの趣旨説明の後、県環境エネルギー課の田中 信一郎さんから、ネットワークの成果を共有し、それを気候変動への適応技術やサービスの研究開発につなげる「信州・気候変動適応プラットフォーム」の設立構想をお話頂きました。県農業試験場の中山 武幸さんからは、気候変動への対応が最も進んでいる農業分野の具体的な取り組みや、温暖化でリンゴの味が甘くなったことなどについてご発表頂きました。



飯綱庁舎の大会議室が満杯に

環境省地球環境局の野本卓也さんからは、これまでの適応プロジェクトの成果を国の施策に生かしてゆくステップに入っていること、2015年夏ごろを

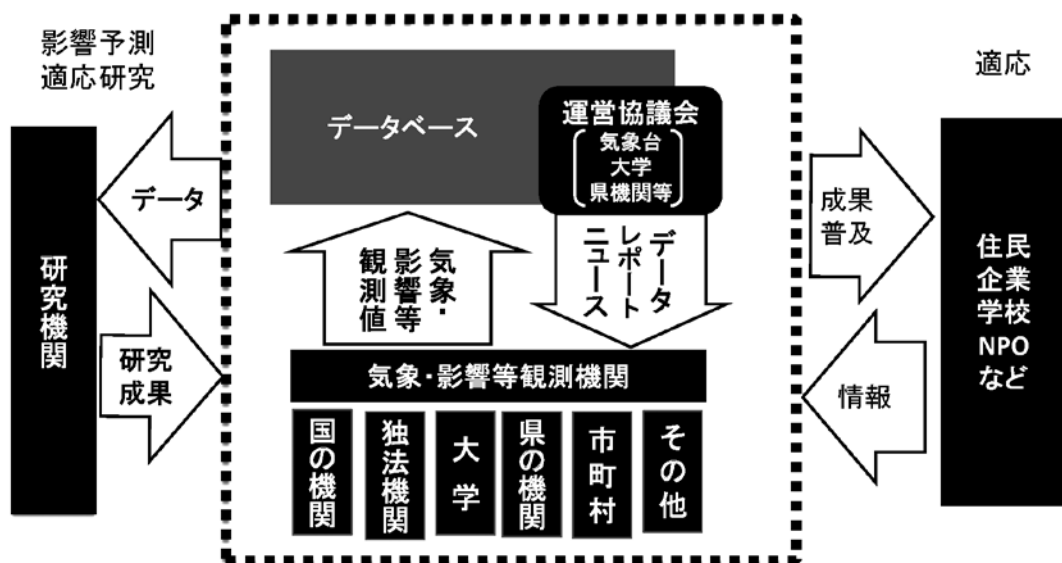
めどに政府全体の「適応計画」を閣議決定する予定であることをご発表頂きました。文部科学省研究開発局の西川徹さんからは、本ネットワークのデータ格納先でもある、文部科学省の超大容量のデータ統合解析システムDIASの概要と、それを中核とした自治体向けのプログラム開発についてご発表頂きました。お二方からは「いろいろな県を拝見しているが、長野県はトップクラス」、「文部科学省が目指していることは、既に長野県で考えられていた」とのコメントを頂きました。コメンテータの信州大学教授の鈴木啓助さんからは、気候変動をモニタリングする上での山岳地での観測の重要性、特に山岳地では低平地のような気温上昇は観測されていないことについてご指摘を頂きました。

パネルディスカッションや各講演での質疑応答では、さまざまな機関の使用目的が異なる気象観測データを、精度と品質を維持しながらどのように使ってゆくのか？ 気候変動モニタリングネットワークという長野県の幅広い取り組みを、維持・推進する人材と予算をどう確保するか？ などの課題についてご指摘を頂きました。

会場でのアンケートでは、お答え頂いた60名の方のほぼ全員から、気候変動の影響は既に現れているとのご回答を頂きました。また、10年後の予測要望と将来の詳細な気候変動影響情報の提供が望まれていることがわかりました。

ネットワークの成果は、分析レポートなどを通じてお伝えしてゆく予定です。みどりのこえでもご報告してゆきたいと思っておりますのでご期待ください。

(田中 博春)



信州・気候変動モニタリングネットワーク(概念図)